都市再生整備計画 事後評価シート 釧路川水際交流拠点地区

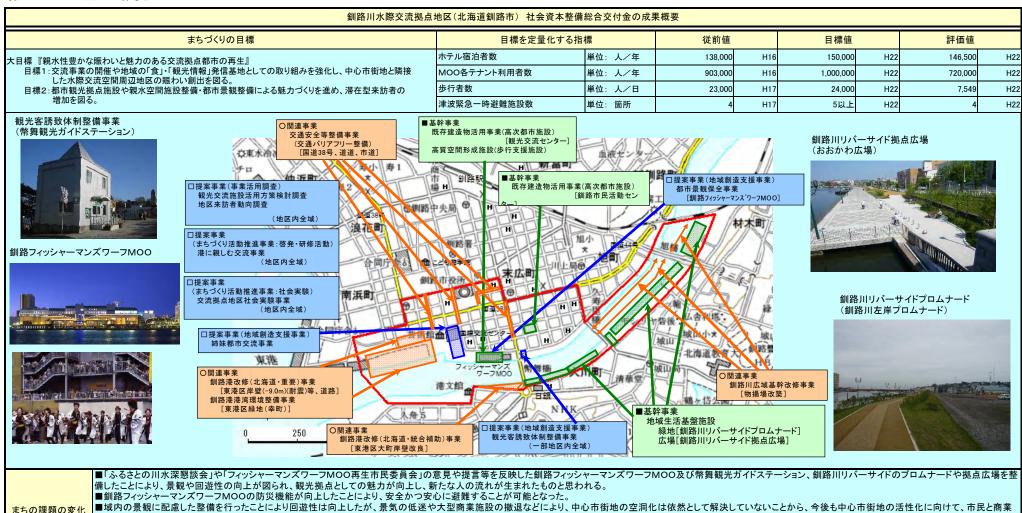
平成23年3月

北海道釧路市

様式2-1 評価結果のまとめ

10k ± 0 2 - 1	北海道		市町村名 釧路市				-	地区名			路川水際交流拠点地区 面積 40.3ha					
交付期間	平成18年度~平成22年度								付象事業費				0.327	山付	40.3118	
	1 122.10 1 122	170,222 170	- アルバー					×137	事業名							
1)事業の実施状況	当初計画に基幹事業		●業在 地域生活基盤施設 (釧路川リパーサイドプロムナード、釧路川リパーサイド拠点広場)、高質空間形成施設 (釧路フィッシャーマンス゚ワーフMOO)、既存建造物活用事業 (釧路フィッシャーマンス゚ワーフMOO)													
	位置づけ、 実施した事業	提案事業	地域創造支援事業(海外姉妹都市交流事業、観光客誘致体制整備事業、都市景観保全事業)、事業活用調査(観光交流施設活用											動推進事業(港に親し	む交流事業、交流	
		灰米尹未	拠点地区社会実験事業) 事業名 削除/追加の理由								当城全八百十四十二十五日十	声 比插 粉体只插	るの影響			
	当初計画から	基幹事業	おし										削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 -			
	削除した事業	提案事業	なし						-					-		
			地域生活基盤施設(釧路フィッシャーマンス゚ワーフM00非常階段機能強化工事)						津波緊急一時避難施設としての避難空間の整備を行い、防災機能 の充実を図るため				まちづくりの目標達成に向け、防災機能の強化を図ることによりブラスの 影響があり、新たな数値目標として指標4を設定する。			
	新たに追加し た事業	基幹事業	既存建造物活用事業(市民活動センター事務所整備工事)						地域に根ざしたす	域に根ざした市民活動相互の連携を向上させるべく、釧路市民 動センターとしての機能性及び利便性の向上を図るため あ。				市民活動センターの		
		提案事業	なし						·							
	交付期間			平成18年度~平成22年度		交付期間の変更による事 指標、数値目標への影										
	の変更変更				従前(道 指標 ()		製油日標への影響 目標値		値	目標	1年以内の	効果発現要認	A	フォローアップ	
2)都市再生整備計画 に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況	指標		単位		1,01331	基準年度		目標年度	数 モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	f見)	予定時期	
	指標1	首数	人/年	138,000	H16	150,000	H22		146,500		あり なし	・観光業不振の状況下で国内の団份 きく、ホテル宿泊者数は目標に到達 ・ただし、域内及び隣接した地域にま れ、平成16年度よりホテル数が増え 泊者数の目標値は下回ったが従前代 業を展開した一定の効果はあった。	できなかった。 新たなホテルも設立さ こている中、ホテル宿	平成23年5月		
	指標2 M00各テナントの利用者数			人/年	903,000	H16	1,000,000	H22		720,000	×	ありなし	・大型商業施設の撤退やMOO内の 適があり、利用者に大きな影響を及 各テナントの利用者数の増加は見ら また、通販での購入など、直接足を 人できる消費動向の変化も影響して ・旅客船による観光客の采訪を促進 有事やウルーズ船誘致活動を展開し 者増に向けた取り組む意識が高まっ た一定の効果はあった。	ぼしたことから、MOO れなかった。 運ばなくても物が購 いる。 するため、寄港歓迎 っていることから、利用	平成23年5月	
	指標3 歩行者数		人/日	23,000	H17	24,000	H22	10,500	7,549	×	あり なし	・釧路川リパーサイドでのプロムナー したことにより、域内の回遊性が向上 設撤退、全国的な景気の低迷による などの外的要因や、空き店舗が依然 り、域内の歩行者数の増加は見られ	こしたが、大型商業施 個人消費の落ち込み 目立つことなどによ	-		
	指標4 津波緊急一時避難施設對		寺避難施設数	箇所	4	H17	5以上	H22		4		あり なし	・M00の防災機能を向上したことに 一時避難施設として指定することが より当初指定していた施設が使用で 増加はなかったが、事業を展開した・ 思われる。	できたが、社会情況に きなくなり、施設数の	平成23年4月	
3) その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況		and the second s	単位	従前	直 基準年度	目標値	直 目標年度	数 モニタリング	値 評価値	目標 達成度 1	1年以内の 達成見込み	効果発現要[(総合所見)	因	フォローアップ 予定時期		
	その他の 数値指標1 利用者数		ステーション	人/年	5,653	季年中度 H19	;口惊十反		L_9999	5,700	EMIZ	<u>EIRTLES</u>	・MOO及びその周辺の景観向上及・ を活用した観光発信事業などを行っ 点としての魅力が向上したことで、新 点として整備した等舞観光ガイドスラ くなっており、MOO及び周辺地域へ 献しているものと思われる。	たことにより、観光拠 たに観光情報発信拠 ・ーションの利用が多	平成23年5月	
	その他の 数値指標2 数			回/年	22	H16				25			・平成18年度に開催回数は減少した 数は増加の傾向にあり、釧路川リパ ドや拠点広場を整備したことなどによ ことで、来場者も増加しており、MOO わいに貢献しているものと思われる。	ーサイドのブロムナー い回遊性が向上した)及び周辺地域の賑	平成23年5月	
4)定性的な効果 発現状況	釧路フィッシャーマンズ! また、釧路川と幣タ												安心・安全の向上が図られている	-		
男現状が 5)実施過程の評価			実施内容					実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング		・指標3「歩行者数」に関するモニタリング(平成18年9月)				,	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				必要なものについては、継続的に数値を把握・評価する。				
	住民参加 プロセス		・『釧路川ふるさとの川推進懇談会』活動支援					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				今後も、市民からより良い意見が得られるよう活動を支援していく。				
	持続的なまちづくり 体制の構築		・『釧路港おもてなし倶楽部』活動支援					都市再生	邓市再生整備計画に記載し、実施できた 邓市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 邓市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				今後も、関係団体と連携を取りながら、活動を支援していく。			

様式2-2 地区の概要



- 者等との連携を図る必要がある。
- ■冬季は夏季と比較すると観光客の入込も落ち込んでおり、年間を通しての観光拠点としての機能強化が必要である。
- ■域内の津波緊急一時避難施設の収容人員数については、減少していることから、災害時には隣接した避難施設との連携を強化する必要がある。

■回遊性が向上したことにより、歩いて域内を楽しめる街並みづくりに係る仕組みづくりを行うとともに、域内イベントが効果的に行われるようソフト面での充実や市民活動の支援を図ることにより、滞在型観光を促進する。

- |■観光情報発信拠点として整備した幣舞観光ガイドステーションに常駐する観光案内スタッフとも連携し、施設のPRを含めた利用促進を図る。
- ■今後も中心市街地の賑わい再生のため、新しい中心市街地活性化基本計画策定に向けた協議を進める。
- ■まちなか居住の取り組みを促進するとともに、空き店舗の活用や魅力ある店舗の進出などによる賑わいの創出を図る。
- ■冬季ならではの特色及び魅力を伝えるツールの整備を進め、冬季観光の活性化を図る。
- ■数多くの各種大会を釧路市で開催できるよう関係団体と連携を図るとともに、美しい夕日などの景観資源や食などの地元の魅力について情報発信していく。
- ■住民及び観光客が安全かつ迅速に避難誘導できるよう、初動対応能力の向上を図るとともに、隣接した津波緊急一時避難施設との連絡体制の強化を図る。

今後のまちづくり の方策 (改善策を含む)